

STAGE+を楽しむ(111)(HP 収載)  
—ストラヴィンスキー 《春の祭典》—

1. 始めに

前報(110)に引き続き、STAGE+のストラヴィンスキーの《春の祭典》の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、ストラヴィンスキーの《春の祭典》の演奏を選びました。

収録配信 2024年1月1日 15:00

マルヴィッツが「春の祭典」を指揮し、語るコンサート

エクスペディション・コンサート

再配信 2024年1月1日 23:00

再配信 2024年1月3日 5:00

ドイツ期待の若手指揮者、ヨアナ・マルヴィッツがベルリン・コンツェルトハウス・オーケストラの首席指揮者兼芸術監督に就任して最初のシーズンの模様です。新たに導入された新しい形式である「エクスペディション・コンサート」の第1回で、マルヴィッツがストラヴィンスキーの《春の祭典》の全曲演奏を指揮する前に、詳細な図解入りで解説を行います。1913年に初演されたこの作品がなぜ今もなお衝撃的なのか、ピアノとオーケストラの演奏例を交えながら解説します。名曲を深く読み解く絶好の機会となることでしょう。

演奏:

ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団

指揮:

ヨアナ・マルヴィッツ

曲目:

イーゴリ・ストラヴィンスキー マルヴィッツによる《春の祭典》解説

イーゴリ・ストラヴィンスキー 《春の祭典》

今回は、エクスペディション・コンサートと銘打っており、演奏曲目の中身を探るという意味で、指揮のマルヴィッツによる解説プログラムがあります。



### 3. 試聴の経過

前回に引き続き、スピーカーアキュライザーからのパイワイアリングケーブルにケーブルチューナーを装着し、ルーター→スイッチングハブ→PCの2本のLANケーブルにLANアキュライザーを使用しています。さらに、スイッチングハブに光城精工の仮想アース Crstal EpLを接続し、ルーターに自作の仮想アースを接続しています。

マルヴィッツがメロディをピアノで弾きながら解説し、オーケストラやソロ楽器のパートの演奏が入ります。解説は早口のドイツ語で、英語の字幕が入りますが、展開が早いのでついていけません。

しかしながら、聴きなれたフレーズがあり、ソロの木管などのパートの個々の楽器の質感がリアルです。特にファゴットの高音の表現もリアルですし、弦楽器群がザザッと演奏される箇所もよく分離してクリアです。

後半は通しの演奏で、音の分離が明瞭で、色彩感あふれるオーケストラの演奏でした。





#### 4. まとめ

LAN アクセラレイザーと Crstal EpL の効果により、解説はフォローできませんでしたが、個々の楽器の質感やオーケストラの迫力は伝わってきました。

以上